

2017 年 1 月 1 日 ~ 2024 年 12 月 31 日の間に 当科において閉鎖孔ヘルニアの治療を受けられた方及びご家族の方 へ

— 「非観血的整復後に腹腔鏡下修復術を施行した閉鎖孔ヘルニア嵌頓 11 例の治療成績」へ
のご協力をお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学附属病院消化器外科 准教授 遠藤 俊治

1. 研究の概要

閉鎖孔ヘルニアはやせ型の高齢女性に多い疾患で、嵌頓をきたし緊急手術になる例が多いとされています。近年では、非観血的整復後に待機的手術を行った報告が増加しています。しかし、非観血的整復後の治療方針は明確には定まっていません。そこで、今回我々は非観血的整復後に腹腔鏡下修復術を施行した場合の治療成績を後方視的に検討しました。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2017 年 1 月 1 日 ~ 2024 年 12 月 31 日の間に川崎医科大学附属病院消化器外科においての閉鎖孔ヘルニア治療を受けられた方を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日 ~ 2026 年 3 月 31 日

3) 研究方法

2017 年 1 月から 2024 年 12 月の期間に当院で経験した閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対して非観血的整復後に腹腔鏡下修復術した症例が 11 例でした。その 11 例の 11 症例の背景、嵌頓部位、手術内容、手術時間、術後入院期間、合併症について検討した。

4) 使用する情報の種類

情報：背景、嵌頓部位、手術内容、手術時間、術後入院期間、合併症 等

5) 外部への＜試料・情報＞の提供

この研究に使用する情報は、他の研究機関に提供する可能性があります。提供の際、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し、提供させていただきます。

6) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学消化器外科学実験室内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。

7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、日本内視鏡外科学会雑誌で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2026年3月1日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

＜問い合わせ・連絡先＞

川崎医科大学附属病院消化器外科

氏名：遠藤 俊治

電話：086-462-111 内線 26503（平日：9時0分～16時30分）

ファックス：086-462-1199

E-mail：endo-s@med.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受入及び使用はありません。研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが生じかねない状態を利益相反状態といいます。本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。